Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより





下) は大木金次郎院長の書によるものである。

40年近くにわたり、女子短期大学の宗教活動の場として利用されてきた礼拝堂は、2022年3月に 女子短期大学閉学礼拝が行われた以降も、大学の夕礼拝など様々な宗教活動に利用されている。

スクーンメーカーと福澤諭吉~津田仙という接点~その1 川島祥子-2

資料センター所蔵資料紹介

「東京英和学校教授会記録」に見る東京英和学校開校前後 佐藤大悟―4

資料センター利用状況・日誌抄-6

受入れ資料—7

利用案内ほか-8

スクーンメーカーと福澤諭吉~津田仙という接点~その1

元幼稚園教諭 川島 祥子

人物評を記述するとき、その人物が残したもの、すなわち業績や実績の跡を辿ることが多い。しかし、人という点と点がつながって出来る線、そしてその線が合わさって形作られる図形に、見事な神の配剤を見ることができることを、スクーンメーカー宣教師の歩みを通して、ここに記したい。今回、様々な資料を手にしたが、歴史学の専門家でもない全くの素人が、推測したい。部分を含め書いたものに過ぎず、批評に耐えないものであることを、まずお詫びしたい。

1. 津田仙という出発点、そしてソーパー師へ

周知のとおり、スクーンメーカーの伝道と教育の働きを一貫して支えたのは、ジュリアス・ソーパー宣教師と津田仙 (津田梅子父) である。言い換えれば、スクーンメーカーが日本での働きを始める前に、神はこの二人の先達を日本に備えてくださった。この二人の点と点がつながるところから見てみたい。

佐倉藩出身の津田仙は、日米修好通商条約締結後に横浜で英語を学んだ後に、外国方奉行所の通弁(通訳)になる。1867(慶応3)年1月に、幕府がアメリカに注文した軍艦を受け取りに、使節団の一員として福澤諭吉とともにコロラド号で横浜を出発した。6月に帰国。1868(明治元)年の明治維新後、津田は東京麻布本村に土地を得て、野菜作りを始める。さて、1858(安政5)年に結ばれた日米通商条約の改正の交渉のために1871(明治4)年に使節団が送り出された。その一行に留学生約60名が同行したが、そのうち5人の少女を政府は帯同させた。その内の一名が数えで8歳の津田梅子であった。

一方、ソーパー宣教師は1873 (明治6) 年に米国メソジスト監督教会にて接手を受け、同年、来日している。何故、ソーパー師と津田仙は出会うことができたのか。以下は「津田仙の信仰と生涯」(嶋田順好著『キリスト教と文化』(24) 所収)を手掛かりに辿りたい。

アメリカに派遣された梅子は、日本弁務官としてワシントンに駐在していた森有礼の同僚、チャールズ・ランメン氏の家庭にホームステイすることになる。聖公会の信徒であるランメン夫妻とともに梅子も教会に通う。そしてついに、両親の受洗に先立つこと1873 (明治6) 年1月に梅子は受洗するに至った。ちょうど二年後の

1875 (明治8) 年に津田夫妻がともに受洗してい る。さて、自身の受洗に至るまでどのようなこ とが津田仙に起きたのか。ソーパー師との出会 いはどのようなものだったのか。「津田仙氏の信 仰経歴談」[1] によれば、当初、友人の杉田廉卿 の影響を受けキリスト教の良さを知ったとある。 杉田廉卿は杉田玄白の子孫であり解剖学を極め ゆくに従いついに神の存在を認めた人である。 さて、1873 (明治6) 年ウィーンで開催された万 国博覧会に民部省農寮職員として津田は一行に 加わる。そこで目にした250国余りの国語に翻訳 された聖書に圧倒された。さらに、カトリック 教会とプロテスタント教会の違いに戸惑い、結 局、聖書を研究して後者に入ろうと決心したと 述懐している[2]。そしてウィーン帰国後、いよ いよソーパー師との出会いが待ち受けているの である。ランメン氏から託された手紙を携えて ソーパー師が津田仙に会いに来たところ、津田 は留守であったため後日、津田が築地のソーパー 師を尋ねた。ソーパー師とのつながりが備えら れる出来事として興味あるエピソードがある。 津田は、京浜間の乗合馬車で何とフルベッキ師 と出会った。教えを乞うが、フルベッキ師は津 田の質問を冷やかしにちがいないと思い返答し てくれなかったとのこと。そのようなことが背 景にあって、ソーパー師が津田の前に現れたの だ。津田は築地のソーパー師宅に通い、礼拝に 出席した。ソーパー師に導かれ信仰への備えの 中にあった夫妻のもとに、いよいよスクーンメー カーが日本へと送られたのだ。1875 (明治8) 年 1月に夫妻で受洗した。津田は「(娘梅子が) 私 共に隠してすでに洗礼を受けたとのことが、後 で解った次第であるが」、自身が聖書を読もうと 心したことは梅子たち娘が祈った結果だと述懐 している[3]。

2. スクーンメーカーのこと、そして津田仙との出会い点と点を確認しただけでは意味はない。何故、神は両者を結び合わされたのか。まず、スクーンメーカーのことを知らなければならない。そのために、そのほとんどを『しなやかに夢を生きる』(棚村恵子 2004年 青山学院発行)に拠るところである。ここでは、テーマに沿った事柄を抽出して記したい。

スクーンメーカーは、WFMS-MEC (The Woman's

Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church) すなわちメソジスト監督教 会婦人海外伝道局の書記であったジェニー・ウィ リングの秘書として働き宣教師として認定され るのを待っていた。このウィリングの宣教師観 はスクーンメーカーに多大な影響を与えた。ウィ リングによれば、キリストの救いによって女性 は本来神によって創造されたときの地位に立ち 神の召しを受けて神のために働く。よって、女 子教育の目的は神の国のために女性が働くこと にあり、あらゆる場で役に立つ人材を育てるこ とにあるとした。スクーンメーカーは神が与え た才能を女性たちが開花させるべく女子教育が あるのだとの確信をもつことになる。キリシタ ン禁制の高札が撤去されて三か月後の1873(明 治6) 年5月、スクーンメーカーの日本派遣が決 定し、翌年10月にサンフランシスコを出発した。 スクーンメーカー23歳のときである。日本に到 着後5日後には、メソジスト監督教会の東京での 責任を担っていたソーパーのもとに寄宿する。 スクーンメーカーは、築地の居留地を出て町の 中に入っていって少人数から伝道を始めるのが 良いと考えた。ここにスクーンメーカーのユニー クさがある。この意気込みと決意が後年、福澤 諭吉の「女性論」に影響を与えたと筆者は考え ている。

さて、ソーパー師を接点にスクーンメーカーと津田が出会う。居留地の外に出るには日本人の理解と協力がなければならない。ここから津田の具体的な支援が始まる。周知のとおり、当初は津田宅の隣家で空き家となっていた岡田平蔵の家の一室を借り、津田に雇われた形をとって、青山学院創立の記念日となる1874(明治7)年11月16日に「女子小学校」の塾名で英語教室を開くこととなった。しかし、日本語をほとん

ど習得しないままであったので、熱意をもって 「町の中に、日本人の中に」と志したものの、ス クーンメーカーは日本語習得のために甚大な労 苦と努力を注いだ。そのような状況の中で、ス クーンメーカーはキリストこそすべて、力の源 泉であると悟り、このことが一貫して、スクー ンメーカーを支えることになった。岡田邸が使 用できなくなると、津田邸で教室を継続するが、 1875 (明治8) 年6月に、同じく麻布本村にあっ た東福寺の薬師堂に教室を移す。この薬師堂で ソーパー師の礼拝もスタートする。しかし、ス クーンメーカーの中ではっきりしていたのは、 寄宿学校方式による伝道と教育が良いというこ とであった。津田の助力によって、同年11月三 田寺町にある大聖院の部屋を借りて、ついに「救 世学校」が開学した。この三田界隈に寺が密集 する理由について、江戸城の拡充による立ち退 きと明暦の大火によって、多くの寺が移動して きたと、港区郷土博物館にて説明がされていた。 何故、大聖院だったのか推測することは興味深 い。①東福寺から②三の橋に至り、そこから桜 田通りに出た突き当りを少し右に行けば③大聖 院がある。その大聖院から歩いて5分もしない ところに4)慶應義塾がある。想像を掻き立てる ことだが、津田と親交のあった福澤諭吉が大聖 院を紹介したのか。津田とスクーンメーカーの つながりが、間違いなくスクーンメーカーと福 澤諭吉の結びつきを導いたと筆者は推測してい

註

- [1] 「津田仙氏の信仰経歴談」 『護教』 344号、1898 (明治31)年 2月26日号
- [2]「博愛なる基督教信者としての津田先生」『護教』877号、 1908(明治41)年5月2日号
- [3] 「津田仙氏と語る」 『護教』 697号、1904 (明治37)年12月3日号



市原正秀「明治東京全図」から編成 1876 (明治9) 年 部分

「東京英和学校教授会記録」に見る東京英和学校開校前後

大学附置青山学院史研究所助手 佐藤 大悟

現在編纂中の『青山学院一五〇年史』では、青山学院資料センターや各設置学校が所蔵する史料を調査し、執筆に利用している。なかでも、教育の様子を知る上で重要な史料に教授会記録がある。青山学院に現存する最古の教授会記録「東京英和学校教授会記録」をもとに、1883年の東京英和学校開校前後の状況を見たい。



東京英和学校教授会記録

史料名は資料センターが付したもので、中表紙に "Minute Book for The Secretary of the Faculty"とあり、全て英語の筆記体で記される。年代は中表紙に"July 26, 1883"とあり、翌1883年7月27日から1887年7月20日の4年分を収録する。男子系の教授会記録は、「東京英和学校神学科教授会記録」(英文2冊、1884~1896年)、「神学部教授会記録」(英文2冊、1896~1926年)を除けば現存せず、実に貴重な史料と言える。

第1回は1883年7月27日に築地のI・H・コレルの家で開かれた。コレル、R・S・マクレイ、M・S・ヴェイル、J・S・ヴェイル、J・ブラックレッジといった外国人教員のみ参加したこと、既に英和学校(Anglo Japanese College)の校名を用いていたことが分かる。第2回は8月11日、横浜の美會神学

校から移築した青山の寄宿舎兼校舎で開催され、 教則等を採択した。

この史料には記述がないが、同月24日に校主 板垣帰一が東京府に「私立学校教則等改正御認可 願」(『青山学院一五〇年史』資料編I、73~79 頁所収)を願い出た。この認可後、東京英和学 校は新聞に生徒募集の広告を出し、開校に向けて 準備を進めていく。

第3回は9月27日に開催された。この日の記録からは、東京府への認可願と異なる点が分かり、大変興味深い。

第一は入学試験の開催である。認可願では、13歳以上であれば誰でも無試験で入学できるとしていたが、9月12・13日の『朝野新聞』広告では9月28日に入試を行うが「初学の者ハ試験を要せず」とあり、入試の有無が特定しがたい。これに対してこの記録からは、9月28日に入試を行ったことが判明する。おそらく、初年度であるため、試験によって学力を測り生徒を各学年に振り分けるとともに、初学者には1年への入学を認めたのだと推測される。

第二は神学科の設置である。1879年開校の美 會神学校と、同校が1882年に合同した後の東京 英学校には神学科が設けられたが、ともに届出・ 認可を経ていなかった。東京英和学校の認可願 も初等科3年・高等科5年と定めるのみで、神学科 は認可を経ておらず、対内的に設置されたに過ぎ なかった。対外的には文部省訓令第12号の影響 で1899年に神学部の認可を得るまで、本校の神 学科・神学部は公的に規定されない状況が続くこ とになる。以上の理由から認可願等に見られない 設立当初の神学科の学科課程を、この記録から 確かめられるのである。 記録によると、この年の神学科は1・2年のみ開講された。学科は、ブラックレッジがバローズの聖書研究入門(Elijah Porter Barrows, A New Introduction to the Study of the Bible)、コレルが組織神学(Systematic Theology)、M・S・ヴェイルが聖書史(Biblical History)、槇田晋作が漢文(Chinese Classics)を週5時間、マクレイが聖書釈義(Exegesis)を週2.5時間、1・2年生に教えた。2年生にはヴェイルがゲイキーのキリスト伝(John Cunningham Geikie, The Life and Words of Jesus Christ)、J・O・スペンサーがウェーランドのモラル・サイエンス(Francis Wayland, Elements of Moral Science)を週5時間、マクレイが説教学を週1時間教えた。美會神学校の神学科の学科と大きな変化はない。

第三は初等科と高等科の学科である。この記録の学科課程表を右に掲げた。認可願のそれとの違いとして、初等科・高等科の区別がなく、初等科1~3年と高等科1年に相当する1~4年が開講された。認可願では初等科1年に2時間、2年に2時間、3年に1時間ずつ設けられていた歴史の授業がなくなり、その分英語の時間が増えたことも分かる。

認可願に記載されない各学科の担当教員も判明する。1年は石坂正信、山鹿旗之進といった美會神学校・東京英学校で学んだ若い教員を中心に、漢文を慎田晋作、英会話をスペンサーが教えた。初学者向けのためか日本人教員が多い。学年が上がると、慎田が漢文、東京大学理学部で学んだ和田正幾が翻訳、算術や代数を教えたほかは、英語以外の学科も外国人教員が担当した。これは生徒にとっても印象的だったようで、「今頭に残つてゐるのは外国人の先生方から習つたことだけだ」(塩谷栄「明治十七八年の頃」『青山学院五十年史』175頁)と回顧される。

東京英和学校が開校した10月1日には第4回が 開かれた。初めて和田正幾が参加し、これより 日本人教員も参加するようになる。この日は時 間割と使用する教室が決まった。8時から8時15 分は"Open Exercise"とあり、これは認可願には記載がないが、当時の年会記録を見る限り礼拝を指すと思われる。午前は8時15分~12時15分、午後は1時30分~4時30分の各1時間、計7時間が授業時間とされた。この時間割は神学科の授業も含み、少ない教室数をやり繰りして授業していたことが分かる。なお、学科等は頻繁に微修正が施されており、下に示したのは開校当初の一時期のものに過ぎない。

わずか4日分だけで紙幅が尽きてしまったが、このように本史料からは公文書に見られない教育の様子を解明できる。英文の本史料を読み解くことで、今年度刊行の『青山学院一五〇年史』通史編Iの記述に反映したい。

東京英和学校開校時の学科課程表

(学科)	(時間)	(教員)									
Programme I Year											
Primer & Reader	5 hours	Ishizaka									
Translation	5 hours	Yamaka									
English Conversation	5 hours	Spencer									
Penmanship	2 1/2 hours	Ishizaka									
Chinese	5 hours	Makita									
	II Year										
3rd Reader	5 hours	Blackledge									
Translation	5 hours	Wada									
English Conversation	2 hours	Vail									
Geography	3 hours	Vail									
Arithmetic	5 hours	Wada									
Penmanship	2 1/2 hours	Ishizaka									
Chinese	5 hours	Makita									
III Year											
4th Reader(Sanders)	3 hours	Miss Vail									
Translation	5 hours	Wada									
English Conversation	2 hours	Miss Vail									
Algebra	5 hours	Wada									
English Grammar	5 hours	Miss Vail									
Chinese	5 hours	Makita									
IV Year											
History	5 hours	Mrs. Maclay									
English Grammar	4 hours	Miss Vail									
Algebra & Geometry	5 hours	Spencer									
	2 hours	Mrs. Maclay									
Translation	3 hours	Wada									
English Composition	2 hours	Spencer									
Chinese	5 hours	Makita									

「東京英和学校教授会記録」1883年9月27日より作成

資料センター利用状況等(2021年度後期利用状況)

1. 月別利用者数

		10) 月	11月 12月		1月		2月		3 月		計			
		前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度
展示見	学 者 数	12	60	11	85	3	146	13	13	0	8	48	40	87	352
資 料 閲		3	9	5	8	2	7	3	7	3	0	2	6	18	37
	本学学生	0	3	0	1	1	4	0	1	0	0	0	0	1	9
	現教職員	3	5	3	4	1	1	3	5	3	0	2	4	15	19
 閲覧者の	旧教職員	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	校友	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
区分	他大学教員	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	牧師	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	一般	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
利用の目的	教会史編集	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2
	学校史編集	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	著述・論文作成	1	0	1	3	2	6	3	6	2	0	0	0	9	15
	伝記資料調査	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2
	記録類の調査・研究	0	1	1	2	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6
	その他	1	6	1	2	0	0	0	0	1	0	1	4	4	12
資料の種類	青山学院史関係(AA)	2	6	3	5	1	3	0	4	3	0	0	4	9	22
	メソジスト教会関係(B)	2	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	1	4	4
	英語·英文学関係(旧 F)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	明治期キリスト教関係(旧 G)	0	0	1	0	0	1	2	2	0	0	0	0	3	3
	一般分類図書	0	1	1	2	1	3	0	1	0	0	2	0	4	7
	その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2

※ 利用の目的、資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数

		10 月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
		前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度
	件数	7	11	10	14	7	7	5	7	7	7	5	8	41	54
質問者の 区分	学生	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	現教職員	5	7	7	6	2	6	1	4	5	5	4	4	24	32
	旧教職員	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
	校友	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	3	2
	一般	2	4	2	6	4	1	2	3	1	2	1	3	12	19
質問内容	文献所蔵調査	1	3	2	8	2	3	2	0	4	1	1	1	12	16
	写真所蔵調査	1	4	4	2	1	1	2	2	2	1	2	0	12	10
	事項調査	5	4	4	4	4	3	0	5	1	4	2	7	16	27
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1

3. 日誌抄



2021年10月

- ・歴史資料館開設準備委員会設置に関するCCEに出席
- ・大学経済学部 永山ゼミ、展示ホール見学
- ・鎌倉国宝館特別展 生誕150年記念「間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館」オープニングセレモニーに出席
- ・大学附置青山学院史研究所開設記念シンポジウム打合せ (web会議)に出席
- ·展示検討小委員会開催
- ・大学予算ヒアリング(web会議)に出席
- · 第1回歷史資料館開設準備委員会開催
- ·全学院事務連絡会 (web会議) に出席
- ・2021年度第2回資料センター運営委員会開催

11月

- ・武蔵野大学からの年史編纂に関するアンケート調査回答
- ・弘前教会、来室及び展示ホール見学
- ・特別展「高等部創立70周年記念展示」開催(11/15~12/24)
- ・創立記念礼拝に出席
- ・全学院事務連絡会に出席
- ・2022年度予算ミーティングに出席
- ・防災委員会に出席
- ・サーバントリーダー研修会に出席
- ・大学附置青山学院史研究所開設記念シンポジウム応援業 務のため展示ホール閉室
- · 第2回歷史資料館開設準備委員会開催

12月

- ・大学法学部 久保ゼミ、展示ホール見学
- ・大学山岳部OB会会長交代挨拶のため来室
- ・鎌倉国宝館、資料返却のため来室

- ・大学史資料協議会東日本部会第125回研究会に出席(慶應 義塾大学三田キャンパス)
- 防災委員会に出席
- ・大学総合文化政策学部 鳥越ゼミ、展示ホールにて大学案 内用写真撮影
- ・大学入学共通テスト説明会に出席
- ・大学国際マネジメント研究科 細田ゼミ、展示ホール見学
- · 青山学報編集委員会に出席
- · 第3回歷史資料館開設準備委員会開催(駒澤大学禅文化歷 史博物館見学)

2022年1月

- ・新年礼拝に出席
- · 『Aoyama Gakuin Archives Letter』 25号発行
- · AOYAMA PRIZEアワード部門、奨励賞受賞
- ・大学入学共通テスト応援業務
- ・防災委員会 (メール会議) に出席
- ·第4回歷史資料館開設準備委員会開催

- ・大学文学部史学科博物館実習のため展示室使用
- ·全学院事務連絡会(web会議)に出席

2月

- ・フィルム資料、デジタル化のため業者へ貸出
- ·大学入試本部企画担当業務
- · 大学入試業務
- ·全学院事務連絡会(web会議)に出席

3月

- ・他大学教員、展示ホール見学
- ·展示検討小委員会開催
- ・青山学報編集委員会(メール会議)に出席
- ・日本聖書協会との打合せに出席
- ・日本聖書協会、展示室等の視察のため来館
- ・フィルム資料、デジタル化作業終了のため業者より返却
- ・全学院事務連絡会に出席
- ·大学学位授与式応援業務
- · 第5回歷史資料館開設準備委員会開催

2021 年度後期受入れ



(学内部署からの資料は除く

寄贈(敬省略、受入順)

崎山俊雄

●『ラーハウザー記念東北学院礼拝堂建造物調査報告書』崎 山俊雄著 東北学院 2021年3月

岩田みゆき(大学文学部教授)

●大学相模原キャンパス開学記念品 図書カード、しおりセット 2003年10月

鎌倉国宝館

鎌倉国宝館特別展:生誕150年記念「間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館」図録 2021年10月9日

佐賀県立美術館

●「白馬、翔びたつ-黒田清輝と岡田三郎助-」佐賀県立美術館特別展図録 2021年9月7日

山本美紀(大学教育人間科学部教授)

● 「日本における初期賛美歌集と女性-マジョリティの教養と「本来の日本語Real Japanese」」 山本美紀著 『礼拝と音楽』 2021年季刊No.191 2021年11月1日

大草敏郎

★学国劇研究部 青山祭前夜祭「助六寸劇」写真(写真①)ほか資料1点

八木沼和子

●高等学部商科卒業アルバム 1934年

佐藤晟雄

●「わたしのスケッチブック」(22) ~ (23) 最終号 佐藤晟雄 著 2021 ~ 2022年 各1点

伊藤悟(学院宗教部長)

- ●『International teachers' edition of the Holy Bible』 青山学院高等部同窓会事務局
- ●青山学院大学vs東北学院大学 記念復活第6回総合定期戦 記念バックル 1955年 (写真②) ほか資料11点

向山功

●青山学院日曜学校 クリスマス礼拝次第 1990年12月(写真 ③)ほか資料7点

青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会

「青山学院大学グリーンハーモニー OB NEWS」No.64 2021年11月

山岸一雄

- ●「鉞家族とフローレンスの日米交流」 DVD 2021年9月 松岡正樹
- ●エムバルソン邸内での集合写真 1907年3月22日

青山学院女子短期大学同窓会童友会(児童教育学科・子ども 学科)

●「童友会会報」第45号(最終号) 2006年1月14日

青山学院大学文学部英米文学科同窓会

●「青山学院大学文学部英米文学科同窓会会報」第46号 2021年12月15日

神田健次

●「フィランデル・スミス・メソヂストー致神学校から関西学院神学部へ:最初期の神学部編入学生と新入学生解明の試論」神田健次著 『関西学院史紀要』第27号抜刷 2021年3月15日 ほか資料1点

相川良彦

●「広田先生の夢の女(1)-夏目漱石『三四郎』覚書-」相 川良彦著 『群系』第47号抜刷 2021年12月25日

露木明

●「魚叟庵-白戸道子の日記-」私家版 2022年1月1日

近藤泰弘 (大学文学部教授)

●「余は一時的反動と思はず」間島弟彦著 『実業之日本』 第23巻第8号 1920年4月15日(写真④)ほか資料多数

シュー土戸 ポール(学院副院長)

● 「Obsequies: Martin Luther King Jr.」複製版 1968年4月9日

高木須江

●高木壬太郎直筆随筆 1889年 ほか資料1点

津田道夫

●「《特別寄稿》津田仙~同志社大学創立者·新島襄との交流」 津田道夫著 『臼井文化懇話会会誌うすゐ』第37号抜刷 2022年1月10日

酒井豊(大学名誉教授)

●大学文学部教育学科案内 1994年 ほか資料12点

石崎康子

●「明治学院歷史資料館News Letter」No.13 2021 2022 年3月31日

中島恭子

●「オハイオウエスレヤン大学資料にみる米国留学時代の中山マサ」中島恭子著 『長崎総合科学大学地域科学研究紀要地域論叢』No.37 2022年3月23日 ほか資料1点

滝澤民夫

●「増野悦興の晩年の『日記』と日本同仁基督教会(二)」滝 澤民夫著 『同志社大学同志社談叢42号』抜刷 2022年3月1日

他大学・学校

●年史・紀要類

購入(受入順)

● 「日曜世界」第4巻第2号、第15巻第4号、第17巻第10~11号、 第18巻第1~2、6、8~9号、第10巻第10-11号 明治40 (1907)、 44 (1911)年、大正11 (1922)、13 (1924)~14 (1925)年 (写真⑤)

- 「日曜学校こども新聞」第97号、第100~103号、第107号、 第122号、第133号、第148号 昭和8 (1933) 年~昭和9 (1934) 年、昭和11 (1936) 年、昭和13 (1938) 年 (写真⑥)
- ●通告簿 大正14(1925)~昭和1(1926)年 青山女学院 高等女学部
- ●新式英習字帖 第1編~第4編 松島剛立案 舟橋雄編纂 明治31 (1898) 年5月2日
- ●青山学院中學部報国団名簿 昭和17 (1942)年~19 (1944) 年度
- ●青山学院高等学部学則 大正14(1925)年4月
- ●青山学院高等学部一覧 大正15 (1926) 年2月
- ●青山学院高等学部入学志願者心得 大正15 (1926) 年



写真①大学国劇研 究部「助六寸劇」 写真



写真②青山学院大学vs東北学院大学 総合定期戦記念バックル



写真③青山学院日曜 学校クリスマス礼拝 次第 1990年12月



写真④『実業之日本』 第23巻第8号



写真⑤『日曜世界』 第18巻第6号



写真⑥『日曜学校こども 新聞』第148号

青山学院資料センターデジタルアーカイブ公開

資料センター所蔵の青山学院史関係資料のデジタルアーカイブを公開いたしました。

青山学院の歴史的資料や明治期の写真などがご覧いただけます。 WEB上で青山学院の歴史に触れることができますので、ぜひご覧くだ さい。

https://jmapps.ne.jp/aogaku/





青山学院資料センター利用案内

新型コロナウイルス感染症感染再拡大防止のため、感染対策 を実施しております。ご来館の際には青山学院ウェブサイトを ご確認のうえ、感染対策へのご協力をお願いいたします。

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。 公開時間

月~金曜日 土曜日 ▼9:30~17:00 (入館は16:30まで) ▼9:30~13:00 (入館は12:30まで) ※夏期期間 (8/2~9/15)

月~金曜日 ▼9:30~16:00 (入館は15:30まで)

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。 特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方はE-mailにてご連絡くだ さい。

閲覧時間

月~金曜日 ▼9:30~16:30 (11:30~12:30は閉室)

土曜日 ▼9:30~11:30

※夏期期間 (8/2~9/15)

月~金曜日 ▼9:30~15:30 (11:30~12:30は閉室)

●休室日

日曜日・国民の祝日・夏期休業期間・クリスマス・年末・年 始・その他青山学院が定める休日

●問い合わせ

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 間島記念館2階

青山学院資料センター TEL 03(3409)6742 FAX 03(3409)8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイト内に資料センターのページがあります。 最新の情報および休室日の詳細はこちらからご確認ください。 https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html

資料センター運営委員

院長 (職務上) 山本与志春 高中部(高) 教員1名 松延 素男 常務理事1名(職務上) 楯 香津美 高中部(中) 教員1名 森田久美子 学院宗教部長 (職務上) 伊藤 悟 初等部 教員1名 小林 寛 野末俊比古 大学図書館長 (職務上) 幼稚園 教員1名 石井 京子 青山学院史研究所長 (職務上) 小林 和幸 総局長 (職務上) 石黑 隆文 大学 教員1名 岩井 浩人 資料センター事務長(職務上)岩本 智実

資料センタースタッフ人数

資料センター事務:

専任 3名

パートタイム 2名

(週4日:1名、週5日:1名) 『青山学院150年史』編纂業務: 大学附置青山学院史研究所

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 26号

青山学院資料センター編・発行 2022年7月27日発行

